



新井田昭男 議員
niida akio

問 地域包括ケアでの「サロン」に係る事業費の拡大は

答 事業実績を踏まえ補助金での支援を進めます —— 町長

「サロン」事業へ 予算を

平成24年より泉沢地区がモデルとなり、

ピンコロ体操を実施、平成26年より「泉沢サロン」を開催し、現在に至っています。泉沢地区では、参加者も多くなり47名で、食事的な開催を行いました。

国による在宅介護の奨励が問われる中、町も職員が知恵を絞り、包括ケア(※1)事業を展開していますが、より一層の鋭意努力を期待しています。そこで、今後の「サロン」事業(※2)について、次の3点について町長の見解を求めます。

①平成27年度予算では、「サロン」に係わる事業費が約20万円程度で概ね需用費となつています。開催地区へ補助金等を交付し、支援する考えはありませんか。



泉沢地区開催の「サロン」

②「泉沢サロン」での開催の際、担当職員が挨拶後に退席をしました。本来指導の立場にいる職員が開催後不在になり、投げやり感も感じています。地域独自で活動する方向性はありませんが、今後の対応はどう考えていますか。

③参加者の多くの高齢者は、今後の開催にも期待を寄せています。行政サービスとして車による移動手段を検討できませんか。

大森町長 1点目の支援ですが予算策定段階では、事業実施に向けて、各町内会へ要請するとしており、実施地域の確定ができていませんでした。このため、年度途中から事業を実施する町内会を想定し、消耗品など需用費のみを計上としました。

補助金対応になると運営計画、事業費予算策定が伴います。初年度は気軽に取り組んでいたため、需用費のみとしましたが、来年度は実績がありますので、補助事業計画を策定し、支援を進めていきます。

次に2点目の「サロン」への対応ですが、職員につきましては、事前に地区のサロン担当者と打合せを行い、当日の司会進行やいきいき体操を実施し、午後からは退席する計画で進めています。また、地域サロンに

携わっているかたと今年度の実施内容について評価検討会を行い、次年度の実施計画を立てていくとしています。次に3点目の車の移動手段については、個人の車で乗り合いしながら、行われていると伺っています。長距離の移動が困難な方や移動支援が必要な方が楽しんでいただけるよう、公用車等の活用についても協議していきます。

(※1) 地域包括ケアシステム…住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域の特性に応じ住まい・医療・介護・予防・生活支援の要素を一体的に提供されるシステム。

(※2) 「サロン」…地域との交流やふれあいの場、交流会、懇談会。